



鶴ヶ島市防災ハザードマップ

Q

更なる防災・減災のために

ごでんぎたかゆき
五伝木隆幸 議員



A

情報を発信して市民の不安軽減に努める

問 地域支え合い協議会における防災・減災の取組状況は。

答 全ての地域支え合い協議会で防災に関する組織が設置されており、防災・減災に関する取組が主体的かつ活発に行われている。

問 「地区防災計画」の策定が進むことが市全体の防災・減災につながるかと考えるが、市の認識は。

答 地区の特性を考慮しながら、市内で統一した防災計画を推進することが必要である。各自主防災組織で作成している避難計画を基に、住宅密集地や高齢者の多い住宅地などの地域特性を踏まえ、地区防災計画策定の推進に努める。

問 東日本大震災の後に実施された「計画停電」の状況等の記録は。

答 平成23年3月15日から28日までのうち、8日間で実施された記

録がある。

問 非常用自家発電設備の整備は。

答 災害対策本部となる庁舎に、48時間以上運転可能な非常用自家発電設備を設置している。

問 大規模停電への対応について。

答 企業や団体と協定を締結し、早期復旧に努めている。市民に対する迅速かつ正確な情報提供が重要であり、防災行政無線やツイッター等を活用して避難所開設状況や電力復旧状況等の情報提供をし、市民の不安軽減に努める。

A

土地区画整理事業完了後、優先順位を決めて整備していく

Q

一本松土地区画整理事業地内の公園整備

うるしばた
漆畑 和司 議員



問 区画整理事業も終盤を迎えた。移転交渉の難航等もあり、その後の建物物件調査の実施などもある。今後の事業の遅れも否めず、最終的な測量、換地処分という流れに向け、仮に来年度に残りの建物移転が終了したとしても、道路築造工事や測量業務が残ってしまうた

答 区画整理事業も終盤を迎えた。移転交渉の難航等もあり、その後の建物物件調査の実施などもある。今後の事業の遅れも否めず、最終的な測量、換地処分という流れに向け、仮に来年度に残りの建物移転が終了したとしても、道路築造工事や測量業務が残ってしまうた



一本松土地区画整理事業地内の残土・資機材置場

め、31年度での事業の終了は困難であるとの見解が出ている。

このような中、区画整理事業地内の公園は、今後どのように整備していく予定なのか。

答 一本松土地区画整理事業地内に計画している公園は、事業計画において地区面積の3割以上を確保するよう、大小含め12か所、合計面積で約4718平方メートルを確保するよう計画している。土地区画整理事業で公園用地を定め、公園の担当課へ引き継ぐことになる。

その後、公園の整備を実施することとなるが、未整備となっている他地区の公園用地も含め、優先順位を決めて順次整備をする。

なお、公園用地の担当課への引継時期は、一本松土地区画整理事業の施行期間を延長する必要が生じているため、36年度末までに行う予定で考えている。

◎その他の質問 中新田地内の屋敷林沿いの道路整備